

パラグアイ内政・外交報告（10月分） 政治情勢

1 内政

（1）新型コロナウイルス感染症（COVID-19）関連

ア 3日付大統領令により、これまで実施していた段階的な外出制限緩和措置を廃止し、パラグアイ全土を対象とする新たな外出制限緩和措置が規定された。全ての住民は、大統領令に定められた活動やサービスを行う場合に限り、5:00～23:59の間外出することができるほか、公的・私的イベントの実施に係る条件が緩和された。同措置は5日から25日まで実施された。

イ 2日、アブド・ベニテス大統領とボルソナーロ大統領は電話会談を行い、国境の開放に合意した。15日、パラグアイ・ブラジル国境（シウダ・デル・エステ、ペドロ・ファン・カバジェロ、サルト・デル・グアイラの3地点）が開放された。

ウ 21日、シルビオ・ペティロッシ国際空港が再開された。

エ 25日付大統領令により、5日から25日まで適用される外出制限緩和措置について、若干のさらなる緩和がなされた上で11月15日まで延長することが決定された。

（2）外務大臣の交代

大統領は複数の閣僚を交代させる意向を発表し、12日付大統領令により、フェデリコ・ゴンサレス大統領国際関係顧問が新しい外務大臣に指名された。ゴンサレス外務大臣は、イタイプ条約附属書改正交渉におけるパラグアイのエネルギー主権の確保を優先事項の一つに掲げた。リバス前大統領は駐チリ大使に任命された。

（3）過去最高量のコカインの押収

19日、ビジェタ市で、大量のコカインを積んだ貨物が押収された。21日は、アブド・ベニテス大統領が押収現場を視察し、押収に成功した治安当局を評価するとともに、引き続き政府として全力でサポートすること、また、組織犯罪への対処を今後も継続すると述べた。押収されたコカインは2906キロに及び、過去最高の押収量となった。

（4）財務大臣の交代

27日、米州開発銀行（IDB）副総裁就任のため、ロペス財務大臣が辞任を表明した。29日付大統領令により、オスカル・ジャモサス財政担当財務副大臣が後任の財務大臣に任命された。ジャモサス大臣は、経済再生計画の実施を優先課題の一つに掲げ、引き続き経済回復のための努力を継続し、いずれは経済成長の道筋に戻せるようにしたい旨述べた。

（5）都市・住宅大臣の辞任

ドゥラン都市・住宅大臣が、社会住宅基金の設置に関する法第3637号第8条

の適用範囲を拡大し、都市・住宅省の工事入札手続に公共契約庁が介入できるようにする法案を提出した議員に対する抗議活動を唆すようなWhatsappメッセージを送信していた問題を受け、30日、同大臣は辞任を表明した。同大臣は、都市・住宅省にとって、自身の辞任が最も良い選択であると考えたと述べ、辞任の原因は自身の過ちであり、汚職ではないと述べた。

2 外交

(1) サウジアラビア外務担当国務大臣との電話会談

6日、リバス外相は、アーデル・アル・ジュベイル外務担当国務大臣と電話会談を実施した。電話会談において、両大臣は、貿易及び投資といった経済面を中心に、両国関係を更に推進することへの関心を表明した。リバス外相は、投資におけるパラグアイの利点や、食糧生産国である点などを強調し、アル・ジュベイル大臣からは、パラグアイ訪問に対する関心が示された。

(2) リマグループ外相会合への出席

13日、第10回リマグループ外相会合がオンライン形式で開催され、ドス・サントス外務筆頭副大臣がパラグアイ代表として出席した。同副大臣は、ベネズエラの政治・司法・経済・社会・人道的危機は、何百万人もの人々の生活に害を与えており、前例のない規模の避難民が発生していると述べた。また、国連人権理事会の国際調査ミッションの最新報告書は、マドゥーロ政権による人権侵害、人道に対する罪の存在を示していると述べた。

(3) ベネズエラ大使（グアイド暫定政権側）の信任状奉呈

14日、アブド・ベニテス大統領は、グアイド暫定政権が任命したオルソン大使から信任状の奉呈を受けた。ゴンサレス外相はオルソン大使と会談し、両国を結ぶ長い歴史と友好関係を再確認した。オルソン大使は、ベネズエラ危機の当初からの、パラグアイ及び同国民の支援に謝意を表明した。

(4) 米国からの人工呼吸器供与

19日、米国から供与された人工呼吸器30台の引渡し式が外務省で実施され、ゴンサレス外相、マッソレーニ厚生福祉大臣、ソアレス駐パラグアイ・ブラジル大使、サラザール駐パラグアイ米国臨時代理大使が出席した。今般供与された人工呼吸器は、ブラジルの協力も得てパラグアイに運搬された。供与式において、ゴンサレス外相はアブド・ベニテス大統領、トランプ大統領及びボルソナーロ大統領の友好関係を強調し、米国とブラジルの協力を謝意を表明した。

(5) ゴンサレス外相のOAS総会への出席

オンライン形式でOAS総会が開催され、20日、ゴンサレス外相は、アルマグロ事務局長と各国外相との会談に出席した。ゴンサレス外相は、COVID-19の対策のための中南米各国の努力とOASの支援により、地域全体に協力の精神が見られると述べた。また、汎米保健機構にも言及し、COVID-19ワクチン入手に対する期待を表明した。

21日、ゴンサレス外相は総会で演説し、世界中がCOVID-19の影響を受けているが、パラグアイは、コロナウイルスの経済的影響の少ない国の一つと言われていることに言及した。また、ベネズエラ及びニカラグア情勢について、両国が民主主義及び法の支配を取り戻すことを求め、パラグアイは、基本的人権を害するような、民主主義に反するいかなる行為も拒絶すると述べた。

(6) ゴンサレス外相の国連創設75周年記念ハイレベル会合への出席

26日、ゴンサレス外相は、国連創設75周年記念ハイレベル会合に出席した。ゴンサレス外相は、パラグアイは秩序、尊厳及び全ての人の人権を基礎に国々が共存するコミュニティを構築するため、長年貢献してきたと述べた。また、国連の組織構造と機能を現状に適合させるための調整を加えることを検討すべき時であること、気候変動等、一国で対処できない問題への対応における国連の重要性、COVID-19のパンデミック後の課題には、アジェンダ2030で掲げられている「誰も取り残さない」の精神を持って対応すべきと述べた。

(7) トルコ・ギリシャ間で発生した地震に対する弔意

30日、外務省は、トルコ及びギリシャに対し、エーゲ海を震源とする地震による死者の発生に対し弔意を表明するプレスリリースを発出した。

3 要人往来 なし